

協働に係る課題		解決策	
役員の偏り・固定化			
1	コミュニティ活動に参加する人が減ってきている、特に若者が参加しない	1	地域からの各役への周知を行い選出することでやる意義を理解してもらう
2	若い人は子育てや仕事に忙しいが、関わる若者を育てることが必要	2	各区のまち協委員の役員位置が低いので、区三役の次くらいのポジションにおいてもらう
3	独居世帯、老老世帯の組の役割分担	3	やる気ある役員さんを捕まえる仕組みづくり
4	まちづくりメンバーのからまわり？	4	役員の選出方法を見直す
5	関わっているものだけでやっているイメージがある	5	任期2年にこだわらず能力のある人に役員就任してもらう
6	役員だけでもがく日々です	6	土日祝日、夜間などを利用した、行事行動のあり方を検討する。
7	関わる人が少ない	7	内容によるが高齢者の才能、能力を活用
8	交通安全協議会の役員は高齢者だけ	8	時代に合った活動
9	区長の選出の在り方	9	固定観念を新しいことへの気持ちに変えられるか
10	同じ人しか活動していない	10	(行う事業が) 求めるニーズとマッチングしていること
11	交通安全の活動には時間的な制限があり、若者の後継者が選べない。再任者が多い	11	小中学生、高校生、大学生、20代、30代に参加する機会を与える
12	少子高齢化による育成会(PTA)、区長会の担い手不足、結果として役員になっただけで辞めれない。ボランティア活動としての限界がきている	12	夏祭りの例のように、中学生ボランティアは募れば来てくれるので積極的に呼びかける
13	お年寄り中心の活動で新しい風が入らない	13	堅苦しくない集まりを開催する
14	役員の選出が難しい	14	若い世代に魅力のある物が必要
15	担い手の高齢化	15	役職ごとの役割を明確化する
16	高齢化で若い人材がいない。ついてこない	16	女性も、参加しやすくする。
17	70~75歳でまちづくり活動	17	風通しのよい組織にする
18	役が重複	18	人員の固定化、若い人の参加を
19	役員の掛け持ちが多い	19	各人の積極的参加
20	町の各役員になる人が少なく、持ち回りでザンシンではなくなっている	20	若者の参加や行動を広い心で受け入れ、活動を応援してやれる。場所をつくる
21	現役世代の参加が少ない	21	年配者の方々が若者の意見を受け入れることが大切
22	高齢者ばかりが担うばかりで、地域の組織が機能していない	22	若い人達の意見をもっと聞く
23	携わっている方が高齢化	23	若者の意見をもっと聞きだす
24	限られた方が多い。(担い手、連携)	24	昔の青年団のような若者が集まる場をつくる
25	活動世代の継続と交代	25	世代ごとでまちづくりの活動を行うことで、若い人の参加を促す
26	若手の台頭がない	26	若者、高齢者に協働の役割分担をはっきりさせる
27	今の主が60~70代である	27	年を取っても参加出来る人は、参加する。
28	役の担い手が高齢化している	28	無差別に20代~50代までに手紙を送って出席してもらう
29	担い手がいないなか高齢化が進んでいる		
30	女性の参画少ない		

協働・まちづくりの課題

協働に係る課題		解決策
	31 協働にかかわるひとの固定化、高齢化、女性の活動が少ない	
	32 若者の協働の参加が望まれる	
	33 女性がまちづくりに入っていない	
	34 若者、女性の参加が少ない	
	35 若い人の参加が少ない	
	36 同じ役員	
	37 協働する人が高齢化している	
	38 町の作業が多すぎる一方で担う人と担わない人の偏りがある	
	39 協働をやる人とやらない人の偏りがある	
	40 新しく移住してくれた人が作業に参加してくれない	
	41 若い人が地区の役員に出て来ない	
	42 若い人が少ない	
	43 参加者の高齢化	
	44 高齢者が増え若者がいない	
	協働の周知不足	
協働・まちづくりの課題	1 公の事に無関心である。	1 (協働のイメージを) オシャレにする
	2 協働による活動が進んでいる実感がない。	2 協働は老若男女の思いが大前提
	3 瑞浪市全体をどのようなまちづくりとしていくつもりなのか、全体像がわからない。	3 子供でも誰でもわかりやすいことばでアナウンスすることが必要。
	4 協働をどこで、いつどのようなことをしたらよいのかわからない。	4 市民一人ひとりが理解しやすい“市全体をこんなまちにする”といったキャッチフレーズを発信することが重要。
	5 協働の周知	5 市役所 自治会 各種団体の協働についてを、詳しく説明。
	6 そもそも協働とは？	6 協働について 個々にて再度認識をするような場を、設ける。
	7 協働の必要性が、理解しにくい。	7 広報等での協働についての発信が根付いていない。ので、発信と周知を、行い各組織からの協働についての認識を高める。
	8 協働のイメージがわからない。	8 自治会等と、協働についてわかりやすく説明が欲しい。
	9 協働について理解が進んでいない、協働という名のもとに仕事を押し付けられている丸投げが多い	9 (協働の) 具体例を示して分かりやすくする。そういうことか！をまず知ってもらう
	10 協働について周知する	10 発信方法を考える(市報等を見ていない方が多いので)
	11 まず協働を周知させる、理解してもらう	11 協働をそこら中に掲示する(ことで市民に意識付けさせる)
	12 どんな協働の方法があるのかアナウンス等	12 SNSなど情報発信の強化を
	13 そもそも市民が協働を意識しているのか？	13 SNSで発信したり
	14 協働を進める意識が盛り上がっていない	14 ツイッター
	15 情報発信が弱い。	15 SNSの活用。若者に伝える。
	16 協働の意味が理解できていない	16 SNSを使う
	17 協働について、市民の理解ができていない。	17 SNSをもっと活用する。
	18 市民意識の向上！	18 協働についてのセミナーの開催
	19 「協働」の言葉や活動が分からない。周知できていない	19 「協働」について、組織、団体への周知を促す
	20 協働の言葉が難しすぎる	20 「協働」の事例や活動を説明する

協働に係る課題		解決策		
21	共同、協同、協働の違いを理解できていない	21	協働等の情報共有	
22	そもそも協働って何って人が多いと思う。(周知されていない)	22	協働の一方が市であることの認識が必要。	
23	協働が判らなかつた	23	行政と市民とが対等な立場での協働ということの周知につとめて、一緒に行なっていきたい	
24	県道の草刈り(通学路)も協働か?			
25	協働の目的がわからない			
26	協働のことすら知らない			
27	総合計画を理解しておらず、問題意識も欠落している			
28	市の計画が伝わりにくい、活動に興味を持たない人が多い			
29	意識が低い			
30	ボランティア活動と行政の役割の境界が不明			
31	協働への理解が進んでいない			
32	PR不足 理解不足			
担い手不足				
協働・まちづくりの課題	1	子どもや若者が減少して、役員の担い手がいない。また新しい担い手探しの方法を考えて欲しい	1	人材バンク登録(でそろばんや昔の遊びなどを教えられる地域にいる匠を可視化させ活動に巻き込んでいく)
	2	地域行事の担い手がいない	2	地元の良さを若い人に伝える機会の創出
	3	担い手の育成(不足)	3	超簡単なことから何か企画をして取組む
	4	地域活動の次世代を担う人材	4	市民活動が楽しい!になること。楽しくないから人が集まらない
	5	役員のなり手がいない	5	気軽に運営に参加できる体制をつくる。
	6	協働する人が少ない	6	成人を積極的に誘う
	7	蛭の育成者など、次世代につなげる必要がある事業に対しての後継者がいない	7	若い人に活躍して頂く(大湫町ミライ振興総合計画を若者を中心に策定したことが成功した)
	8	消防団加入も不足	8	若い人の意見 学生へのアンケート
	9	区長や役員の後継が見つからない	9	学生の参加を進める
	10	人材不足	10	まちづくりに熱意のある人を育てる
	11	役員の担い手がいない	11	担い手への報酬を確保し、人材確保を
	12	まちづくり、消防団等の担い手不足	12	担い手の育成。若者の参加
	13	若者の人材不足、また若者が行事に参加しない	13	各地区から若者を人選し集会する
	14	消防団員減少	14	竜吟の森自然ふれあい館は、まち協経由で指定管理を受けているが、別組織として指定管理を受けることで活動の拡大や人材育成を図る
	15	ボランティア、後継者がいない	15	人材の掘り起こし
	16	交通安全のやり手や、引継ぎ等人員不足、高齢化など	16	強制的に実行する
	17	コミュニティ活動の役員になり手がいない	17	任期2年から4年くらいにする
	18	草刈の人手がない	18	役員には少なくとも報酬を与え責任ある仕事をしている自覚を持っていただくようにする

		協働に係る課題	解決策
	19	役を押し付けあってしまう	19 まち協の役員に給料を払えるような団体にする
	20	後継者の不在	20 大手企業の力を借りることを考える
	21	若い担い手不足	21 やりがいのある、魅力的な活動に(有償化?)
	22	担い手がいない	22 職員 議員を消防団に
	23	消防団のなり手がいない	
	24	まちづくりの担い手不足	
	26	人手不足	
	27	人材をどう取り込むのか課題	
	28	長寿会に入る人が減っている	
	29	役員の役回りが早い	
団体・地域間の連携不足			
協働・まちづくりの課題	1	どの団体が何ができるのか?知らないのをお願いしにくいのではないか?	1 中央だけの行事にとどめず、各地区が関わる関わりやすい行事、事業に!
	2	まちづくり推進協議会と他の団体の接点がない、行事に参加して終わりになっている。	2 他の地区とのコラボ
	3	団体と団体、人と人とのつながりがない	3 交流の機会を持つ (お喋りコーヒーお茶食事)
	4	学校や老人会等との交流がない	4 コミュニティスクールを活用し、(団体間の)接点を設ける。
	5	区長会とまちづくりとの一体感がまだまだ	5 部署の枠にとらわれない活動への支援を行う
	6	コミュニティスクールについて、PTAの関わりがない。誰と誰が協働していくのか、その目的も明確でない。	6 地域の事業所、区長会、自治会、PTAとの協力をもとにおこなう事業とする。
	7	まちづくり、社会福祉協議会など、複雑。子供会、町内会、長寿会、組織で単純に協働できない。	7 (協働の)主催者の方にはじめの土台作りをしていただく。各代表者の打合せの場の設定を
	8	協働するときに頼みやすい環境	8 まちづくりと町内企業との接点を持つ
	9	まちづくりは特に協働で行事を行うべき!	9 協力がしやすい環境づくり
	10	協働する余裕が団体がない	10 まちづくりや団体がまとまって行動していく
	11	目標に向かう団体間の協力体制がとれていない。(協働の目標が明確でない)	11 具体的な地域の活動テーマを行政担当者と議員、地域住民が解決へむけて取り組むこと。支援職員の自主性拡大。
	12	すべてが個の活動になっている	12 情報の共有が必要
	13	組織の協力が得られにくい	13 住民、事業者、行政と協力
	14	各地区の好例が他地区に浸透していない感がある	14 市、議会、町民との交流増加
	15	域学連携ができていない	15 地域で協力する
	16	普段より連携を取り合っていないため、情報交換が出来ていない	16 力を合わせ働ければ少しは良くなる
	17	地区間、団体間の情報共有が足りていない	

協働に係る課題		解決策
人口減少による活動の先行き不安		
協働・まちづくりの課題	1 地区によっては、若い者がいない。消防団の人材不足、子ども会が維持できるか不安	1 地域組織体制は、旧体制のまま引き継がれてきており、現状の地域状況では無理が生じている。現状に沿った新組織体制を構築するべき。
	2 指導者不足や子どもの減少により、地域行事の伝承が困難になっている	2 組割の再検討（市と区にて協議）世帯数の少ない地域の役割分担の見直し
	3 子供会の活動が維持できない	3 自治会の再編
	4 人口減少で区の運営が難しい	
	5 区単位での活動がむつかしくなっている	
	6 後継者不足様々な事業が持続できるか不安	
	7 伝統事業が継承できない	
	8 子どもが少ないため当然保護者が少なく、活動する際の保護者の負担が大きい	
	9 昔からやっていた作業を少ない人でやらざるを得ず、個人一人ひとりにかかる負担が増えている	
	10 少子化高齢化が進むなかでの小中学校資源回収は、減員方向にあるPTAのみでは行っていない	
参加者が集まらない		
1 まちづくりの活動への参加者が少ない	1 子どもが参加する行事にすれば、親も来るので、行事を経験することができるのではないかと	
2 まちづくりに限られた人しか参加していない	2 協働の成功例、誰でも参加できる事例の研究で協働に取り組む必要がある	
3 住民すべてがまちづくりに参加することは難しい	3 学生を活用、役に立つ団体にすることで参加を促す	
4 参加する方が限られる	4 親子でふれあえる場を設ける	
5 地区、市の行事に人が集まらない	5 市民が参加しやすく、自由に言える機会を大切にしてほしい。	
6 行事やっても人が集まらない		
7 いつも同じ人しか参加してくれない		
8 手土産があるとそれ目当ての人は来るが、いつも同じ人の集まりになってしまっている。人が来る以外の成果も追及した事業を行っていくべき		
9 人が集まらない。地域が広すぎる		

	協働に係る課題	解決策
	業務過多	
	1 会長の仕事が多すぎる	1 イベントを市でやる
	2 区の役割分担、組によっては5世帯から50世帯と違うため世帯数が少ないと役割をやりきれない	2 役職を減らし、区を合区にする。また、市からの連絡などをスリム化する
	3 まちづくり、消防団、交通安全とボランティアの役が多すぎる。サラリーマンではできない。	3 必要な物かどうかチェックを付ける仕組みをつくり、伝統的な物は残しながら役をスリム化
	4 市からくる区の役の仕事が多い、人材不足のため区長など役を何度もやらなくてはいけなくなる。	4 自単会の行事をスマート化、スリム化して、協働の時間をつくる
	5 ボランティアが多すぎる	5 組織のスリム化
	6 役割の負担率が高い。役が多すぎる	6 地域組織の改革
	7 役員が大変	
	8 イノシシによる獣害被害などの新たな課題が出てきて、そちらにも人手が必要	
	行事・活動の縮小	
協働・まちづくりの課題	1 地域行事等の活発化	1 無理にでも行事を増やす。(減らさない)
	2 地域のイベントがコロナで中止となりその後、それが当たり前になり「なくてもいい」という方向に進んでいる	
	3 コロナで行事がなくなり、復活ができるのか	
	4 市民、町全体元気が無い	
	5 コロナ禍で増々活動減少	
	6 町民の交流の機会が少なくなった	
	7 コロナ禍で疲弊	
	8 人口減少のため行事や団体の活動が止まっている	
	活動への理解不足	
	1 他人事	1 事業参加の効果、楽しさをもっと練ることが必要
	2 地域活動への理解度が低い	2 地区勝ち抜き大会など地区を巻き込む企画作り
	3 新しく入ってくれる人が町のしきたりを守ってくれない	3 土岐小学校コミュニティースクールの発展活動として魅力を発信する。
	4 瑞浪地区に活動を知ってほしいが、なかなか浸透しない	4 行事イベントで(一日市長消防長の様な)一日市民の募集
	5 まちづくりの活動を多くの市民が理解していない。無関心	5 発信する場としてSNSの活用
	6 活動内容の認識不足	6 SNSをもっと上手に活用する。
	7 街づくりへの理解がない	7 活動内容、必要性を理解していただく。
		8 イオン等、人が集まる場所でPRする。
		9 活動内容を広報しては
		10 井戸端会議を増やす。
		11 広報より口コミ。

協働に係る課題		解決策	
自治会加入者の減少			
1	自治会加入の努力	1	自治会加入への方策を再考。特典も！
2	自治会加入率が低く、情報が行きわたらない	2	自治会加入のメリットをつくる。優遇制度
3	広報はスーパーや金融にあり町内会に加入しなくても情報は入る	3	新規入居者さんへの自治会への参加しやすさを、行政にてもう少し工夫して斡旋して欲しい
4	アパート等の人との付き合い方	4	アパートを造った時にオーナーが町内会加入を条件にするとよい
5	自治会の加入率が50%以下の所がある	5	自治会加入は行政の責任。メリットをよく説明すること
6	協力金、社協会費も払わない。		
組織・活動の目的が不明瞭			
1	役割が明確でない	1	行事を見直し削るべき。予算、時間を確保する
2	資源回収にモチベーションが持てない	2	まちづくりの法人化が必要（収益事業財源の確保）
3	自主性がない、まちづくりやらされている	3	自治会として目標が必要
4	組織の必要性を考え直してほしい。育成会、子ども会、PTA、保護者会など。また学区、市、県など上位団体に所属する必要性についても	4	まちづくりの運営を基本から変える
5	組織の見直しがされていない		
6	青少年活動は、県、市、地区と繋がった同じようなことをやっている。それぞれに違った独自性のある仕組みづくりが必要		
活動のマンネリ化			
1	役員がコマになっていてやらされ感が強い	1	スクラップ&ビルド。一度やってみようと壊してみる。だめだったら元に戻せばよい
2	皆が楽しめる活動がない。	2	街づくり活動に外部から人的刺激を取り入れてみては、ふるさと応援隊の一年間移住活動
3	マンネリ化	3	時代に合うこと、ニーズに合わせる。講演会しなくても今ならyoutubeですごい人の話が聞ける
4	まちづくりは恒例行事で手いっぱい	4	楽しく取り組めるように活動を見直す
5	新しい提案が採用されない		
6	現状の行事を辞める勇気が必要		
価値観・生活環境の多様化			
1	協働、ボランティア活動に対する考え方や受け止め方には、個人差（世代間差）が生まれており、地域での事業継続が難しい	1	活動する個々の希望に沿った(モチベーションアップ)行動をする
2	協働に「地域格差」「世代格差」が大きく見える	2	時代に合った行事にする
3	（年代の混ざった交流を設けようとしても）互いに時間が合わなく、打ち合わせる時間がない。自単会でいっぱい	3	自己犠牲の精神がなく個人になっているので、みんなで集まることがむづかしい。行政から知恵を借りることも良いのではないか
4	個人の温度差がある。（主体性・能動性）	4	多様な生活スタイルへの対応
5	町民が平日型、休日型になりまとまらない		

協働・まちづくりの課題

協働に係る課題		解決策	
コミュニティの希薄化			
1	コロナで地域コミュニティが希薄	1	一日市場にある「かつぎ会」のような団体があり、地域での見守りが大切
2	近所付き合いが悪い		
3	近隣のかかわりが薄くなっている		
4	各区の触れ合いが減ってきている、奉仕作業以外には		
5	無尽がない		
組織・役員への支援不足			
1	市民協働課にまちづくりのプロがない	1	各地区のまち協の目標に対して活動支援ができる人材をつくる
2	市がまち協に交付金を丸投げして終わりの形になっている		
3	職員が3年で変わってノウハウや支援力が高まっていけない		
4	まち協の委員への支援強化を		
5	協働と言って行政が地域に事業を押し付けている		
リーダーの不在			
1	地域の中心になる人がいない	1	各地区にリーダーがいると良い
2	言い出しっぺが現れない	2	若者に地域リーダーになれるように皆でもり立てる
3	リーダーとして引っ張ってってもらえる人材が少ない	3	地区ごとにリーダー養成をするべき
4	主体的、能動的な行動をする人が少ない		
5	協働を進める旗振り役がない		
地区の割り振り			
1	まちづくりの地区と小学校区が異なるため、学校などでの行事で不便を感じる。※和合など	1	行政からまちづくりのエリアの学区制を提案し、それを実現するための説明会を開催する
2	小田、山田、一色、寺河戸の地域差がありまとまらない	2	小田、山田、寺河戸の連合の町名をつけるとよい
3	地域が広くてまとめることがむずかしい	3	町単位をなくす
4	学区の決め方が分からない		
5	コミュニティの見直し		
拠点がない			
1	コミュニティセンターがないため、地域間交流ができない	1	公民館を使い易くする（地元にあった公共施設の活用）
2	地域のまとまりがないのは、コミュニティセンターがないため、拠点がないから	2	夢サポはあるが周辺地のような、コミュニティセンターがあると活動がしやすくなる
3	（拠点がなく）会合ができないから魅力発信が弱い	3	土岐小学校の空き教室を利用し、拠点をつくる
4	土岐地区には協働を進める拠点施設がない	4	コミュニティ施設を新たに設ける
		5	今ある施設を有効活用し、拠点化する（稼働率を再検討）

協働・まちづくりの課題

協働に係る課題		解決策		
協働・まちづくりの課題	金銭的支援が不十分			
	1	ボランティアも有償が必要	1	財産区の財源を利用しやすくする
	2	まちづくり活動が活発化しない（コロナ禍も影響）	2	まちづくり活動の手当てを出す。ボランティアでは限界
	3	地域活動の予算（助成金）を増やす	3	今後のまちづくりは、区長会からまちづくり組織主体に？まちづくり組織への助成金の増額を
	4	周辺部への財政出動が足りない	4	まちづくり交付金を人件費に使えるようにする
			5	財政支出をし、地域を援助してほしい
	個人情報の取り扱い			
	1	20～23名程の個人情報を市から受け取ったが、緊急事態時に担当する全ての方々へ責任をもって対応することはできない	1	個人情報に関しては、日頃からの地域情報を住民が共有し、緊急時には、素早い避難行動へ繋げていくべき。したがって地域での管理とする
	その他			
	1	近隣のみので広報防災無線がつかえないか		
2	防災無線の使い方がわからない。地域利用の可能性はある			
3	行政が市民の願いを聞く姿勢がない。想いを共有できない			
4	情報共有方法（意欲がある人が参加しやすい形に）			
5	協働で活動する方がうまくいく方法のコーディネーターが必要では？			
6	課題についての原因追及が来ているか			
7	陶町がなおざりにされている気がする			

協働に係る課題		解決策
人口減少		
1	人口減少対策	1 急傾斜地指定等を解除してもらい居住可能なエリアを増やす
2	人口増への具体案が出てこない	2 休耕田を格安で貸出し移住者を募集する。
3	人口減による地域拠点（小学校など）の縮小統廃合	3 農地の宅地化
4	人口構成（年代）のバランスの悪さ	4 移住定住の促進による若い世代の呼び込み
5	結婚できない 働き場所がない 市外へ出ていく ことで若者がいなくなっている	5 住宅環境を良くする。（住みやすい市営住宅の整備、補助金の充実）
6	市街地（市中心部）だけでなく、周辺部にも人口減少対策を望む。	6 定住移住促進政策をもっとパンチの効いたものにしては。
7	周辺部から町へ人が出ていってしまう	7 釜戸に来ると良いことを伝えていく
8	進学で若い人が町を出て行ってしまう	8 移住について超法規的な(特区の様な)扱いが欲しい。
9	地区の子どもがいない	9 流出防止対策(人口増加対策)
10	人口減少が止まらない	10 町営（市営）住宅をつくる
11	薬師町、松ヶ瀬町は人口増	11 家を建てられる宅地など転入できる場所をつくる
12	昼間人口をいかに増加させ、先々瑞浪市内に定住促進を図ることがポイントとなります	12 安心して住める居住環境を整える
13	定住促進の強化を	13 陶からプロゴルファーを出して移住定住者を呼び込み
14	移住定住施策にもっと注力すべき。	14 定住するには？土地利用の緩和
15	地域間格差、インフラ全般、観光施設など、また働ける場所がなく、移住定住につながらない	
16	若者が進学就職を機会に地域を離れる。	
17	学校がなくなることで、子どもが少なくなっている。	
18	転入者への補助	
19	若者の定住が進まない、便利な土地がない。	
20	インターネットの接続環境が悪い。NTT光回線が来ない。インターネットが使えないような所は、若者は出て行く。地元離れにつながる。	
子育て環境の充実		
1	子どもを産み育てる環境が整っていない	1 学園台から小学校へ、柔軟な学区の対応を考えてほしい
2	人口増やす目標なのに産婦人科がない	2 子育て、結婚、出産する人に1,000万円助成する。
3	産婦人科がない。	3 教育医療給食の無料化。
4	産婦人科などの病院の充実が必要。	4 子育て支援の充実化。
5	高齢者福祉ばかりではなく、教育費の増額を望む。教育費が低い。	5 市が今いる人を守る姿勢を持って、学習支援の機会の創出、公共交通の充実をはかる
6	少子化、子供が少ない（近くに友達がいない）	6 学習支援ソフトで学習
7	子育て環境に不安。（放課後児童クラブが進まない。身近なところに働く所がない。住宅事情が悪い。）	7 土岐市の放課後教室の仕組みを、陶へもってきて欲しい。
8	子どもの居場所を確保すべき。	8 学童がないので放課後教室を
9	児童館がない	9 近所で子どもを預かる。

人口減少・少子高齢化対策

		協働に係る課題	解決策	
人口減少・少子高齢化対策	10	子どもの遊び場がない。土岐市の陶史の森のような気軽に立ち寄れるところ	10 お年寄りが子どもの世話をする。	
	11	シングル家庭への支援が足りない	11 中高一貫校を陶に。	
	12	日吉小学校は少子化で複式学級となってしまうほど 人口減少、少子高齢化となってきた		
	13	少子化子どもの減少。複式学級でいいのか？		
	14	環境やSDGsについて子どもへの教育が不足している		
	15	稲津陶中学校合併で人数が減少しているが小学生はどうなるのか。		
	16	人口児童数の減少。竜吟幼児園児、釜戸小の子供は減少、瑞浪小学区との差が激しい。		
	17	学童がない。		
	18	小学生に学力をつけてやりたい。		
	交通手段強化			
	1	車がない人の交通手段	1 小さいバスにする。	
	2	高齢者の交通手段を確保すべき。	2 家に直接迎えに行く ドアtoドア タクシー	
	3	移動手段の確保。買い物などの楽しみが必要	3 住みやすい環境の整備（病院交通）	
	4	オークワ、コメリ、ケンキがあるが一人暮らしの人の足に介護タクシーが必要。	4 介護タクシーの様な乗り物が必要。	
	5	中学校線など学校へのアクセスが不十分、小中学校まで車での送迎がないと通学が困難。また、高齢者としてもコミュニティバスなどの本数を増やしてほしい	5 免許返納者への継続的な支援、小学校のスクールバスの活用、シルバーバスの実施など	
	6	高齢者が多い→動けない人が多い		
	7	厚生病院が遠くになり一人暮らしの人の足が困る。		
	8	この地域では、運転免許証は欠かせないものである。		
9	部活に通わせるのが大変(バス2本でも良い)			
10	東鉄路線バスは減便し、最終は19:50など公共交通網が脆弱。コミュニティバスは効率が悪い			
11	山奥暮らしの私はタクシーをお願いして病院買い物に行く。			
12	交通の便が悪い。			
13	バスの便が悪い。			
通学の見守り・安全な通学路				
1	土岐小学区の通学路は危険箇所が多数ある。地元議員に相談してもダメだった。誰に相談すれば良いのだろう。	1 通学時間は通行止めにする。		
2	通学路の安全を確保すべき。	2 地域で安全に対する勉強会が必要。		
3	道が悪い(特に通学路)	3 ウォーキングをしながら通学路の安全対策を行う。		
4	通学路の安全点検について改善がなかなかされない。	4 ガードレール等を整備する。		
5	朝の交通安全指導等子どもの登校時の交通量の増加と道路状況が毎日不安。(百田交差点、県道の交通量が多い)	5 通学路については市PTA連合会で注意深くチェックをして会員にも知らせていく。		

協働に係る課題		解決策	
6	側溝の清掃	6	グリーンベルトの増設
7	通学路の安全確保が図られていない。通行車の速度超過が多発している。	7	通学時間帯の車両抑制
8	道路脇の木が成長して危険。	8	子供の登下校に地域の皆で見守るようなアピールをする。
		9	ゾーン30の設定を交通安全協会に申し出る
		10	交通七曲がりの歩道を設置し、自転車道を作る。
若者の働く場所の創出			
1	働き先が少ない。	1	税金優遇などの産業育成を
2	働く場所が少なく、若い人が入ってこない	2	企業誘致用の土地開発を行うなど企業誘致推進を
3	市内に働くところがないため市外に出ていってしまう	3	若者の働く場のさらなる活性化を。地場産業に限らず、先端企業を瑞浪市に創造させる。IT企業、リニア開通以降本社を移してもらう。
4	産業がない	4	企業誘致
5	働く場所が近くにない	5	働き場所の確保。企業誘致を進める。
6	仕事の種類が少ない	6	事業所等の誘致を行って、働き場所を創出する。
7	会社がない。雇用	7	工業団地を造る
		8	働く場所の確保(企業誘致)
		9	若者の働く場所の確保
		10	若者に魅力ある企業誘致
		11	企業誘致、交通の便が良いので可能ではないか、雇用促進のためにも。
		12	働く場所を増やす
		13	都市部との賃金格差をなくす
		14	トヨタの誘致策
		15	若い人が働きたくなる場所
魅力ある施設の整備			
1	例えば、駅前再開発についても、その周辺部への展開はどうなるのか。	1	日吉体育館(アリーナ)の有効な活用。若い世代が集まってきやすい環境の整備。スケボーやロッククライミング等が体験できる施設の整備
2	道の駅ときなあたとの市のスタンスは？	2	キャンプ場グランピング(などのアウトドア施設を設けてはどうか。)
3	道の駅に農産物直売所無しはありえない	3	国会を瑞浪に持ってくる。
4	定住者が求める施設がない(イオンなど)	4	リゾートを誘致人が来るように！
5	観光資源を活かせない、スピード感がない。	5	キャンプ場、BBQ場や貸農園など陶町に訪れる人の流れをつくる
6	遊べる公園が少ない。	6	立派でなくても良いので、公園、グラウンドを整備する
		7	道の駅を公民館にする
		8	屠畜所の整備
		9	ショッピングモールを誘致

人口減少・少子高齢化対策

協働に係る課題		解決策
空き家活用		
1	廃墟が多い	1 空き家の整理に片付け費用を→倉庫利用
2	空き家対策、安全安心	2 空き家バンク等情報は業者に任せの方が分かり易い。
3	空き家問題	3 空家の活用(田舎暮らしのPR)
4	空き家対策(相続等で所有者不明)	4 古民家のリノベーションの充実、移住者補助金のアナウンス。
5	空き家が多い。	5 空き家と希望者のマッチング。
高齢者の支援		
1	独居老人が増えている。	1 高齢者が集える場所を造る。 いきいきサロンなど
2	高齢者(高齢化率50%)にとって住みにくい町	2 各戸への困りごと調査を行い住みやすい環境づくりにつなげる
3	独居高齢者へは、ワクチン接種の手続きなどを地域の方が自主的に手伝っておこなっている。接種会場への送迎なども。	3 申し込みから問診表への記入など、市からの訪問等による支援をおこなう。
4	緊急時、地域内における高齢者や障害者等情報が掴めなく、避難行動への対応に難しさを感じる。	4 高齢化は瑞浪市(稲津)だけの問題でないことを認識し取組む必要がある。
		5 周辺部に暮らす高齢者支援の補助を増やしてほしい
農業振興		
1	作っていない田畑の草	1 地域の農業が廃れないような農業振興を進める
2	イノシシ除けの柵を自費で対応を依頼されるが市の補助があって良いのでは	
3	イノシシ鹿の駆除→イノシシを解体する場所がない(人施設)	
4	営農に委託できない小さい田圃などの農地の管理	
魅力の発信強化		
1	市の魅力をもっとアピールすべき。	
2	市観光行政に偏りはないか？竜吟の森をもっとフィーチャーしてほしい。	
3	市の観光施策が大湫宿や鬼岩に偏っている印象	
医療体制の確保		
1	医療不安が多い	1 医師を確保する
2	病院(特に小児科)	
ごみ問題		
1	ごみ収集の問題	1 各組ごとの収集場所が有るといい。
		2 ゴミ収集場所を行政でまとめたらどうか
		3 アパートごとに収集所の確認。
		4 収集場所が道側にある為公園内に設置できるような行政で市の法令を変更して欲しい。
		5 ゴミの収集場所にオリを置いて欲しい。

人口減少・
少子高齢化
対策

協働に係る課題		解決策
その他		
1	みずなみ未来カフェの意見が（7次総に）活かされるのか？	1 住んでる人が輝く街を目指すべき
2	一人世帯が多い	2 光りかがやく瑞浪市づくり
3	色々なジャンル部署からの集まる場を設けて個々にて検討する。 →認知不足	3 魅力がある地域
その他	4 市役所に行ってもたらいまわしに合う	
	5 行政が法律に縛られている	
	6 議会と行政との一体した動きが伝わらない。	
	7 市民が声を上げてても結果を教えてくれない	
	8 子供を車ではねそうになった事がある。	
	9 適正な情報提供	
	10 野生動物が居て歩くのも怖い。	
	11 保安林が多い。	
	12 地域格差で教育、税制、雇用に問題がある。	
	13 市のキャッチフレーズ。ワクワクするようなものが必要。	
	14 山林 植林ただけで管理できない	
	15 豚コレラ対策の薬を撒いたことでイノシシが元気になった	
	16 ヤマヒルが大量発生→カモシカが連れてくる？中山道を歩く観光客に被害が及ぶ可能性あり観光のためにも対策が必要	
	17 良い飲み屋が無い	